

令和5年度 第2回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：令和5年8月24日（木）18:30～20:15

会 場：7階 704 会議室

参加者：名取 はにわ会長・本田 純副会長・林 恭子委員・鶴岡 増夫委員・若林 弘子委員・
田島 学委員・山本 桂子委員・功刀 隆委員・小堀 高広委員

事務局：市民部長・生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- (1) 東久留米市男女平等推進プラン進捗状況評価について（令和4年度事業）
- (2) 東久留米市第4次男女平等推進プランの評価方法について
- (3) その他

・議題 (1) 東久留米市男女平等推進プラン進捗状況評価について（令和4年度事業）

会 長：事務局より説明を。

事 務 局：～ワーキンググループ（以下WG）中に委員から出た質問について回答～

会 長：WGについて、それぞれのグループリーダーにご報告いただきたい。

- 1 G：順調に事業を実施している課が多く、評価も高いところが多かった。ただ、毎年思うことだが、公共調達については生活文化課だけで行うのは無理がある。例えば、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業に対し加点をする、特典を与える、表彰するなど、様々な取組をしている市や区を参考にして、調達部門と一緒に何かしらの成果を出せると良いと思う。
- 2 G：比較的评价が高めであり、例年と比べてA評価のところも多かった。各課様々な工夫をし、コロナ禍でもよく頑張っているという意見も何度も出てきた。評価をする中で、何ヶ所かブラッシュアップという言葉が出てきた。今は時代の流れが非常に早く、こどもたちはどんどん新しい情報を取り入れていく。大人もそれに追いついていくために、学校も毎年見直しを行い、常に新しい情報を取り入れながら取り組んでいただきたい。また、報告書の中には、取組として資料の提供のみというものがあつたが、もう一歩踏み込んだ取組ができないか気になったところではある。
- 3 G：報告書の内容から、新しい取組を始めている、重要な指標が確実に向上している、といったことが読み取れると評価が高くなる。そのような視点で評価を行ったところ、今回はA評価が多かったように思う。4次プランでは、もう少し基準をはっきり示した上で、評価が行えるようにするべきではないかとも思った。

会 長：委員からもご意見、ご感想を伺いたい。

委 員：3グループはA評価が多かった。特に、生活文化課や秘書広報課、図書館がともに男女共同参画社会への理解促進のために意欲的に企画、実施したことがよくわかった。

子育て支援課の取組も良いと感じた。ただ、児童青少年課においては児童館や学童保育所での全職員会がなくなったということだったため、今後の取組に期待したい。一番気がかりなことは男女共同参画情報誌「ときめき」のことである。部数が減少し、今後「ときめき」をさらに活用していきたいという各課の意欲は感じるが、どのように活用し、周知していくかが大きな課題だと思う。例えば、市民会議で関連部署と意見交換をした内容をときめき編集委員とも共有し、今、男女共同参画にとって何が課題かということ紙面に掲載してもらうことなどは考えられないだろうか。今後、学校の授業で「ときめき」を活用してもらうにしても、そういった課題の共有は大事ではないかと考えた。

また、各施策や事業を実効性のあるものとするために、各課が連携したり、ヒアリング行ったりしていることもよくわかった。こうした取組が一過性にならないように、今後とも前向きに取り組まれることを希望したい。

委員：資料で議論されているところにつける。男女共同参画の施策を直接的に担当しているような部署が連携強化するのは当然のことではあるが、とてもよくやっているという認識が深まった。しかし、DV被害が発生しているようなケースを考えてみた時に、プランに担当課として直接的に出てこない課も実は関係しているということもある。担当課は適切に対応しているのだと思うが、日常から全庁的に男女共同参画の視点・認識を持って取り組み、この概念の周知に努めていただきたいと考える。

委員：ワーキング以降、女性リーダーの育成には何が必要かということを考えている。環境整備も非常に大事、また女性リーダーを育成するには男性の意識改革も絶対に必要不可欠である。女性がこどもを産んでも働き続けられたり、キャリアを諦めたりすることがないよう、男性も協力しながら、国レベルで考えないとならない問題である。コロナ禍でテレワークが進んだが、こどもが家にいたら仕事なんてできないということは、誰が考えてもわかること。子育て中の方がリモートワークを成立させるためには、誰か他にこどもを見る人が必要な訳で、そういうことに使えるような補助金や助成も必要だと考える。

委員：中学校2年生向けに性教育に関する出前講座を行ったということだが、特定の学校に限定されている。良い取組なので、センターから働きかけをして、他の小中学校でも出前講座を活用してもらえると良いのではないかと。また、防災関係のところ、震災等が起きたとき被害者の半分は女性であるため、女性消防団員を受け入れようということが書いてあるが、これも非常に難しいことだと思う。女性消防団員を増やしていくのかと云ったら、環境整備をするしかない。市だけで消防団の人数を増やすというのは難しいと思われるため、消防庁にも団員を増やすための方策をもっと真剣に考えてもらい、設備や環境を整備していかねばならないのではないかと考えた。

委員：2グループは、全体的に評価が高めだった。コロナが5類に移行する前の年度の評価なので、コロナ禍でありながらも、各課が工夫をしながら事業を実施し、頑張ったのではないかと。ただ、BやCという評価だった事業については、今後さら

に取組を進めるにあたっては、市民会議の講評・提言を真摯に受けとめ、それを受けて新たなプランでも、事業を進めていくことがポイントなのではないかと思った。

委員：昨年度どのように書いていたのかというところの突き合わせをしながら評価したいと思う場面が何度もあったが、時間的に厳しい部分があり、ジレンマを抱えながら評価をした。そう思う一方で、市民会議からの講評や提言を各課がどのように受け止め、どのように以降の事業展開に生かしていったかということが見えない。それを見ようと、やはり突き合わせが必要となる。4次プランの評価方法に関する話なのかもしれないが、その辺りが見えるような工夫ができれば、評価の基準の一つにもなり得るのではないかと思った。

・議題 (2) 評価

事務局：今年度の諮問事項のうち、プランの評価方法について、事務局で報告書と評価書の案を作成したので説明したい。

1点目。3次プランでは、各課からの報告書と市民会議からの評価書のページが分かれており、比較する時に見づらかったため、報告書と評価書を1枚にまとめた。

2点目。担当課が報告書を書く上での参考とするため、「着眼点」という項目を入れた。

3点目。3次プランでは、担当課が記載する項目が「取り組み状況」、「評価理由」、「今後の課題」、「次年度の方向性」と4か所あったが、「取り組み状況」と「評価理由」、「今後の課題」と「次年度の方向性」をそれぞれ1つにまとめた。

ここ数年、大学や他課が実施する市民向けの講座等で担当が登壇することも多く、より実務が増加してきている。事務局としては、報告書・評価書に時間を割くことよりも、啓発や情報発信に力を入れたいと考えているため、このような案とした。

会長：この案だと、施策によっては同じ課が多数の事業を1枚の報告書に記入することになる。また、複数の事業に対し数値目標欄が2つとなり、それも少なすぎる。事業番号ごとに1枚の報告書とした方が良いのではないか。

委員：前年度と比較してどのくらい達成できたのが重要。昨年に書いた改善策や目標が達成できたかというチェック欄があるとよい。

委員：数値目標に関しては、昨年度よりも少しずつ数字を上げていくというような安易な設定をするのではなく、年によって与件も異なると思われるため、その辺りのことも吟味して数値を決定していただきたい。

委員：新たな取組をした場合は、別個に書いてもらえるとよいのでは。

会長：実務に力を入れていただくために、報告書・評価書の簡略化について異論はない。ただ、重要なポイントは省かないようお願いしたい。

事務局：今回の会議でいただいたご意見を反映させたものを改めてお示したい。

会長：では次に、もう1つの諮問事項である第3次プランの令和4年度事業の進捗状況評価の答申について事務局より説明いただきたい。

事務局：答申文について、今回の会議で頂いたWGリーダー、各委員からのご意見などを

まとめて案を作成していきたいと考えているが、特にこれは答申文に入れて欲しいというものがあれば伺いたい。

会 長：東久留米市の女性管理職の少なさについては言及しないといけない。他にご意見があればどうぞ。

委 員：男女平等推進センターの利用者数は分かるか。

事務局：講座の参加者数や図書の貸出数、相談者数等は分かるが、以前のセンターと異なり、会議室の貸出し等を行っている訳ではないので、それ以外の目的で来た方の人数は把握できない。

委 員：男女平等推進センターについては、存在すら知らない人や奥まった場所にあるため分かりづらい、土日や夜間も開かれていないため、ふらっと立ち寄ることができないといった課題があると思う。センターの利用者数が増えていることが分かれば、スペースの拡大といったこともあるのではないかと考えた。

委 員：一番のポイントは「ときめき」ではないか。講評・提言の中でも全自治会に配布し、回覧板で高齢者にも見てもらうといった提案がされている。内容の充実とあわせて、広報に「ときめき」の特集に関するコラムを掲載するなどの工夫も検討しつつ、市民にどれだけ周知できるかが重要である。

委 員：市民だけに読んでもらうのではもったいない。他市でも情報誌を発行しているため、近隣市とタイアップすることでより多くの人に読んでもらえることができるのではないか。

事務局：各市で作成方法もかなり異なるため、一緒に作成するようなことは難しいと思うが、お互いに市のホームページにリンクを貼るといったことは出来るかもしれない。

委 員：今はデジタルの時代なので、紙での部数を増やしていくことよりも、どのようにして市のホームページへアクセスしてもらえるかということを検討するべきではないか。

委 員：自分たちの時代の古い価値観で若い世代を縛ってはいけません。そのためには古い価値観を持った世代にこそ、男女共同参画のあるべき姿を知ってもらう必要がある。そのためには、デジタルだけではなく「ときめき」を紙で発行することも重要と考える。

委 員：ただ、若い世代に「ときめき」を読んでもらうことを考えると、やはりデジタル化についても検討していかないといけないと思う。

・議題 (3) その他

会 長：ではその他について事務局より説明を。

事務局：第3回会議については10月3日(火)、第4回会議については、10月17日(火)、答申については10月26日(木)を予定している。